

★回りに向かう ホトケ 仏さんの種類って？



一言に『仏さん』と言っても、世間ではいろんな意味に受け取られます。本来の意味としては、『仏＝悟りを開いた存在』が基本なのですが、そうは言っても実際のところは、寺院などに祀られた仏像の総称としてや、あの世を総べる神様のような存在としてや、さらには亡くなった人の隠語として等、かなり広い意味で認識されています。

本来の意味に忠実に従うならば、仏さんとは御釈迦様や阿弥陀様や大日如来ということになってしまうのですが、それではせっかく多彩な日本仏教が少々味気ないものになってしまいます。そこで今回は、〇〇仏・〇〇如来・〇〇菩薩・〇〇明王・〇〇天・〇〇善神など、仏教に登場するたくさんの崇拜される対象としての一切を『仏さん』として、その多岐に渡る種類や分けられ方について説明致します。

① 仏・如来

如来とは、サンスクリット語でタターガタ（真理から祈る人の心にやって来る者）が意識されて『来るの如し』という漢字2字に集約されたものです。

如来の代表は何と言っても仏教の開祖であるお釈迦様です。参考までに言うと、釈迦の十号とも呼ばれるように、御釈迦様の敬称には10種類ほどが数えられ、釈迦如来と呼ぶ以外に釈尊や仏世尊などと呼ばれることもあります。

あくまでも方便として順位を付けるならば、仏さんの中で最高のクラスを意味します。大日如来、阿弥陀如来、薬師如来などが有名です。

阿弥陀如来



② 菩薩

菩薩とは『ボーディサットヴァ』が音写され菩提薩埵となり、それがさらに半分の表記にされたもので、その原義は『悟りを目指す人』です。付け加えると、自分よりも先ず他の人を悟りへと渡す為に衆生に紛れ、広く奮闘する存在を意味します。

ちなみに、観音様で有名な観世音菩薩は、この世に生きる人々の苦しみの声（音）を観る菩薩と言う意味です。音を観るとは、その音の源を聞き分けるほど近くに寄り添ってくれる存在を意味します。

また、同じく有名な地藏菩薩は元のサンスクリットで『クシティガルバ』（大地に宿された大きな慈悲）を表し、さらにガルバが胎内を意味することから連想されて、水子地藏などでも知られているように、子どもたちを守る存在として篤い信仰が定着しました。

千手観音



③ 明王

非暴力を掲げる仏教ではありますが、怒りに満ちて取えて怖そうな武器を持っているのが明王の特徴です。

護国寺の本尊でもある不動明王を始め、例外的に武器を持たない孔雀明王、夫婦円満の御利益があるとされる愛染明王、さらに京都などではトイレに祀られることも多い烏枢沙摩明王などもあります。目を合わすのが躊躇われるほどの出で立ちですが、これは恨みつらみからの憤怒ではなく、また人を殺める為の武器でもなく、あくまで人々を救済するための一方便の姿なのです。

とりわけ不動明王については、教えを聞き難いある種の人々の為に、大日如来が姿を変えて現れ出たものとして真言宗や天台宗では特に信仰が盛んです。

アイゼン
愛染明王



④ 天・護法善神

最後に、護法善神とも呼ばれる諸天ですが、端的に言うこれらは元々インドの神話に登場する神々が仏教に取り入れられたものです。『神様でありながら仏さん』な訳ですが、有名なものとしては飛鳥時代の伽藍の中に東西南北に則して祀られた四天王や、インドラの神である帝釈天、さらにはヒンドゥー教に於いて最高神とされるブラフマンとしての梵天などがあります。

さらにこの他にも、〇〇明神や〇〇権現という重要なものもありますが、こちらは『神仏習合』という話に絡めて、またの機会に譲りたいと思います。

ビシャモンテン
毘沙門天



※ 四天王の中の北方
多聞天の別名